

【様式】

平成29年度 学校マネジメントシート

学校名 (四日市農芸高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		共通教科並びに専門教科を通じた教育活動の充実に努め、専門技術者（スペシャリスト）を育成するとともに、心豊かな人間性を育み、地域社会に貢献する人材を育成する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○農業科目や家庭科目への興味・関心を持ち、将来のスペシャリストとして、その進路実現のために専門的な知識・技能の習得をすすめている。 ○自ら進んで挨拶し、コミュニケーションをとることで、公共心、規範意識、人間関係を築く力、自尊感情を高めている。
	ありたい 教職員像	○目指す学校像実現に向けて、様々な場面において情報共有と意思疎通を図る教職員 ○生徒の無限の可能性を信じ、生徒に寄り添いながら自らも成長しようとする教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><生徒> 専門的な知識や技術の習得、進路希望の実現、人格形成</p> <p><保護者> 安全安心な学校生活の保障、規律ある生活習慣の確立</p> <p><地域住民> 地域の活性化、学校施設の提供、地域防災の拠点</p>
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	
	<p><保護者> 生徒が明るく生き生きと目標に向かって努力する。自己実現・進路実現、学校からの情報発信</p> <p><地域住民> 交流の場としての協力、地域行事への協力、地域開放講座などの実施</p> <p><同窓会> 歴史と伝統のある学校としての実績、地域社会に貢献する有能な人材育成</p> <p><大学等や産業界> 有能な人材育成への期待</p>	連携する相手への要望・期待
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ・ 県の様々な事業の活用で、専門教育の充実につながっている。地域連携を学習活動の向上に活用していくことは、学校教育にとどまらず、地域の活性化という視点からも有効な手法である。今後も本校の特色を活かし、精選された地域連携を発展させていくべきである。 ・ 本校で学んだことが、卒業後にどのように活かされているのかを知り、これからの教育活動を充実させていく必要がある。今後、卒業後の進路を見据えたより高い専門教育の指導が必要である。 ・ 中学卒業生の減少もあるが、本校への入学者選抜の志願者数が減少している。系、学科、コース体制の見直しによる新しい専門高校の魅力作りを検討する必要があるのではないか。 ・ 本校の伝統である何事にも一生懸命、素直に、真面目に取り組むという学校文化を教職員が一丸となって指導・継承していく必要がある。
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標を持って学習や部活動に前向きに努力する習慣が醸成されている。 ・ 校内での合言葉である「挨拶は農芸の心」が学校文化として浸透し、何事にも真面目に素直に取り組もうとする豊かな心が育まれている。 ・ 農業教育、家庭科教育をすすめる上で、更なる校内施設設備の充実が必要である。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域や産業界との連携が年々充実する反面、地域からの要望過多により教職員の多忙化や困難化を招いている。 ・ 業務の簡素化・効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保する工夫が必要である。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の充実と専門教科指導を強化し、生徒一人ひとりが持つ能力を引き出し、希望の進路実現につなげる。 農業・家庭学科において将来のスペシャリストの育成と地域連携を通して、より実践的な学習活動を展開する。 心の教育や部活動を通して、規範意識を醸成し、生徒の自主性や個性の伸長を図る。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談や特別支援教育充実のための体制作りをすすめる。 学校の将来構想・展望の検討をすすめる。 専門高校の特色を活かした進学に向けた指導体制を確立する。 組織の業務内容の見直し、総勤務時間の縮減に取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年団および進路指導部・教科と連携し、基礎学力診断テスト、基礎学力テスト、進路模試を実施する。 ○できる限り自習時間を減らすよう授業変更の努力をする。 【成果指標】生徒一人ひとりが納得のいくコース選択 100%を目指し、各学科・コースと連携して説明会を持つ。 【成果指標】検定合格・資格取得者数のべ1400名を目指す。 ○図書館運営の充実を図る。 【成果指標】図書館を活用した授業50時間以上、生徒一人当たりの貸し出し冊数5冊以上を目指す。 	<p>各学年で予定通り実施</p> <p>農業・家庭部において実施 検定合格・資格取得者数ほぼ達成。</p> <p>達成</p> <p>調べ学習 97時間 貸し出し平均 4.7冊/人</p>	
改善課題			
各科・各コースが独自の学習指導を熱心かつ丁寧に指導した成果が着実に現れている。この状況を外部に発信し、本校への志願者が多くなるような、なんらかの行動をしていきたい。			

項目	取組内容・指標	結果	備考
進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 【活動指標】1学年は勤労観を育み自己理解を深めるため、進路講話を4回以上実施する。 2学年は、総合的な学習の時間を通して、自己の進路実現に向け自主的な行動ができる能力を養い、生徒が就職・進学の意味決定ができることを目指す。 3学年は、進路決定に向けて学年と協力し、進路未決定者0を目指す。 【活動指標】各学年とも進路希望調査を年2回行う。2・3学年は1回以上の個別面談を行う。 【活動指標】進路指導広報誌「あすなろ」を1年3回、2年6回、3年9回以上の発行する。 【活動指標】3学年は、学科と連携し、過去の実績をもとに150社以上の事業所訪問を目指す。生徒は企業見学に積極的に取り組み、企業を理解し応募決定ができるよう努力する。 ○インターンシップを実施し、知識・マナーの必要性を自覚させ、学習意欲と適切な勤労観を養う。 ○各教科・コースと連携して「進学補習」と「受験課外」を計画的に実施する。 【活動指標】学年・学科との連携を強化し、主に四大進学希望者へ早期からの指導と3年校外模試を3回実施する。 【成果指標】国公立・難関私大への合格者のべ10名を目指す。 	<p>1・2年生は計画通り実施できた。</p> <p>3学年の取り組みである 150社以上の企業訪問は 個々の職員が訪問した数を把握できないため達成したかは不明。</p> <p>あすなろの発行数はわずかながら未達成。進学補習、受験課外は多くの職員が関わり、計画的に実施できた。校外模試は3回実施。</p> <p>就職希望者は100%決定。</p> <p>進学者は2名未定(2月15日現在) 今年度の国公立大合格者は1名。</p>	

改善課題

<就職>学年は、就職希望者が67%と昨年度より19ポイント増加。求人者数も県内から675名、県外の572名を含めると1,147名になり、昨年よりも200名以上上回る結果となった。数字を見る限り売り手市場だが、女子の就職希望者が多く、男子求人希望の企業や競争求人の企業もあり、スムーズな就職活動とはいえなかった。一般常識試験、適性検査、面接等への対策をさらに深めていく必要がある。
 <進学>進学希望者の中には、希望する大学のランクを下げる生徒もいた。生徒の実力をつけさせるとともに自信もつけさせていく必要性を感じた。

項目	取組内容・指標	結果	備考
生徒指導の充実	○日常的な校内美化指導、環境教育 ○担任と生徒指導部の連携強化 ○問題行動の抑止 ○日常の挨拶の徹底、生活マナーの大切さの指導 ○部活動や学校行事への積極的な参加 【活動指標】月例生活点検合格者90%以上、再点検合格者100%を目指す。 【成果指標】全教員の100%が生徒に対しての声掛けが出来ていると感じることを目指す。 【成果指標】全生徒・教職員の80%以上が挨拶は出来ていると感じることを目指す。 【成果指標】全生徒・教職員の80%以上が状況に応じた言葉遣いができていると感じることを目指す。 【成果指標】学校行事を良かったと感じる生徒が85%以上 【活動指標】クラブ加入率70%以上を目指す。 【成果指標】環境デー校外作業への参加生徒が全校生徒の70%以上を目指す。	計画的に実施できた 連携できた 件数少ないが、引き続き努力 不十分 学校行事が未達成 月例 88%合格→未達成 再点検合格 99%→未達成 「するようになった」、「以前から十分している」92%→未達成 生徒 89%→達成 教職員 56%→未達成 生徒 77%→未達成 教職員 54%→未達成 82%→未達成 83%→達成 84%→達成	

改善課題

- ・生活点検合格者の指標など目標がほとんど達成できなかった。これは生徒指導部からの発信が不十分であることに起因している。この反省を次年度に生かしたい。
- ・挨拶においては、まず全教職員が率先垂範を心掛けることが重要である。
- ・言葉遣いや服装など、気づいたらその場で指導することが必要である。
- ・リボンを垂らして着用する者が目立つという声が相当数あった。これまで十分に指導をしてきていないところであるが、女子スラックス時のネクタイを検討しているタイミングでもあり、まずは正しい着用の仕方を新年度から指導していく(男子のネクタイも同様)。

様々な機会を通じ共通理解を図り、日常の指導を充実させていく。

項目	取組内容・指標	結果	備考
農業教育の充実	【成果指標】専門科目における資格の精選を図り、取得者総数を350名以上とし、将来の進路に向けた学習意欲の向上を図る。さらに職業教育顕彰、アグリマイスターの表彰者を、それぞれ10名以上を目標とする。 【成果指標】農業クラブ競技会においては県大会で最優秀を4つ以上、東海大会では優秀賞を2つ以上、全国大会では優秀賞4つ以上を目標とする。 ○生徒の安全を第一とした実習・実験を行う。 専門性を活かす進路先の確保のための企業開拓、各機関との連携を図る。 【成果指標】老朽化した施設設備改修の予算化を図り、学習環境	資格取得者総数 313 名 アグリマイスター 22 名 職業教育顕彰 16 名 農業クラブ競技 県大会最優秀 3 つ 東海大会優秀 3 つ 全国大会優秀 5 つ 達成 トラクター等の機械整備 JA の協力による籾乾燥機	

	<p>の生徒満足度 90%以上を目標とする。</p> <p>【活動指標】</p> <p>○農業関連分野への視野を広げる取り組みとして、インターシップ、ファームステイ等への参加を促す。</p> <p>○各種イベント、出前授業、地域開放的な取り組みを積極的に行い、地域に根ざした学校づくりを行う。</p>	<p>の更新</p> <p>各コース夏期インターシップを実施。ファームステイには本校から5名参加</p> <p>JA 鈴鹿、JA みえきたとの連携</p>	
--	--	---	--

改善課題

アグリマイスター顕彰を取得するためにFFJ検定取得への取り組みが活発になった。危険物取扱責任者においても全類合格者が増えていることなど、資格取得に向けての取り組みが活発に行われていると思われる。農業クラブ活動においても東海大会出場ならびに全国大会優秀賞の入賞者数など、昨年度以上の成果を収めた。次年度以降も各コースが連携し合い、更に向上を図れるよう協力体制を進めていくよう努めたい。

項目	取組内容・指標	結果	備考
家庭科教育の充実	<p>○専門的な技術を向上させ、各種コンクール・ショーに入賞できるよう指導する。</p> <p>【活動指標】 教員が各種講座や研修会へ1回以上参加し、専門知識をより充実させ、授業に還元する。</p> <p>【成果指標】 家庭クラブ員として生活文化科の生徒全員が積極的に活動を行い、家庭クラブ活動の充実度 90%以上を目指す。</p> <p>○進学に向けた専門知識の充実を図るために補習授業を行う。</p> <p>【成果指標】 専門科目における資格取得をすすめ、さらに上級の資格取得に取り組む。また、資格取得者数延べ 800 名以上を目指す。</p> <p>【成果指標】 地域連携の機会を増やし、なるべく多くの生徒が地域と関わりを持ち、参加生徒の満足度 90%以上を目指す。</p> <p>【成果指標】 将来の進路希望を固めることのできた者 90%以上を目指す。</p> <p>【活動指標】 社会マナーに関する個別指導の機会を一人につき、2年生に対して1回以上、3年生に対して2回以上、持つ。</p>	<p>各種コンクールで入賞できた。全国レベルでの表彰が数多くあった。</p> <p>参加できた。</p> <p>家庭クラブ員充実度 84.5% → 未達成</p> <p>小論指導・面接指導を実施</p> <p>資格取得者</p> <p>→延べ人数 1,009 名</p> <p>生</p> <p>徒満足度</p> <p>→満足・ほぼ満足 99%</p> <p>進路希望達成者 →98%</p> <p>3年生全員 →2回</p> <p>2年生全員 →1回</p>	

改善課題

生徒の作品に対する外部評価が非常に高い1年であった。今後も継続できるように生徒・教員ともモチベーションを維持する必要がある。家庭クラブ員としての家庭クラブ活動の充実度 90%以上が未達成となった。背景には家庭クラブ員としての自覚と家庭クラブ活動の認識度が低いことが考えられる。家庭クラブ活動の認識度を高めるために、5月の総会時に全家庭クラブ員に対し、ガイダンスを実施した。今後も継続して、家庭クラブ活動の認識を明確にできるよう工夫するとともに、家庭クラブ活動の充実度も向上させる工夫が必要である。

項目	取組内容・指標	結果	備考
人権教育の充実	<p>○生徒・教職員が様々な人権問題を正しく理解・認識するための取り組みを推進する。</p> <p>○校内人権教育推進委員会において人権教育推進計画を作成し、実施することにより人権教育を推進する。</p>	<p>11月職員研修、12月人権講演会・LHR実施</p> <p>校内人推委員会6回実施</p>	

改善課題

本年度は、全校の取り組みとして、部落問題を中心に学習を展開したが、より継続的かつ身近な取り組みに発展させていく必要がある。

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
開かれた学校づくりと組織運営の充実	<p>【成果指標】開かれた学校・学校説明会、入門講座、農芸祭、各種講習会等校外から参加する催しの企画運営を見直し、参加者の満足度90%以上を目指す。</p> <p>【成果指標】 ○PTA 理事会を充実させ、PTA行事等の改善を図る。</p>	<p>学校説明会中学生 99% 保護者 99%、入門講座 99%が満足(達成)</p> <p>企画見直しは未達成 農芸祭生徒 98% 職員 85%達成</p> <p>各PTA行事への参加希望者が増加した。</p>	
改善課題			
<p>・学校説明会の内容（特に学校案内）について、昨年アンケートにあったように事前に「歩くこと」を連絡し、不評意見は減少した。来年度はインターハイとの関係もあり、内容の検討が必要である。</p> <p>・業務内容があまり刷新されていないので、今後新しい視点から見直すようにしたい。</p>			

項目	取組内容・指標	結果	備考
情報提供による信頼の定着	<p>・HP の効果的な運用を検討し、最新の情報を発信し、年間閲覧数30,000件を目指す。</p> <p>・電子掲示板を活用し、情報提供に努め、毎日運用するとともに、月1回以上の更新を行う。</p> <p>・文書及びHP、絆ネットによりPTA 行事や保護者公開の学校行事などの紹介に努め、教職員との共通理解・連携を進める。</p>	<p>閲覧カウンターの使用期限が切れ、正確な数はわからないが、閲覧数3万以上は達成</p> <p>更新回数 達成</p> <p>全学校行事を紹介した。</p>	
改善課題			
担当者の交代があっても更新頻度を維持できるようなシステムの構築			

項目	取組内容・指標	結果	備考
危機管理体制の充実と生徒・教職員の安全安心を守る取組	<p>○防災・危機管理マニュアルにより、危機管理にかかわる訓練を2回実施し、いざという時に備えられる組織運営を目指す。</p> <p>○防災訓練に、地域住民への参加を呼びかけるとともに、農業及び家庭科の専門高校の強みを活かした活動とする。</p> <p>○生徒の各種検診の実施の徹底、生徒向け保健だよりの発行</p> <p>○AED 講習会、献血セミナー、性教育講座、薬物乱用防止講座の実施、農芸祭での食品調理説明会による指導等を実施する。</p>	<p>・防災訓練をテーマにしたMIE職員力アワードで、協創推進部門賞を受賞</p> <p>・各種検診達成、便り学期ごと発行。AED 講習会、各種講座、食品調理説明会を計画どおり実施した。</p>	
改善課題			
<p>・職員対象 AED 講習は教職員 25 名、保健委員 35 名参加。次年度も継続して実施していく。</p> <p>・地域住民を巻き込んだ防災訓練は、地域内外からの評価が高く、学校として地域貢献のあり方を検証する機会であり、生徒に学びの深化、自信、誇りを感じ取らせる意味で、継続する意義がある。</p>			

項目	取組内容・指標	結果	備考
教育相談・特別支援教育の充実	○担任をはじめ各学年、各分掌との情報の共有を密にし、迅速な対応がとれるよう連携していく。必要に応じて、スクールカウンセラー・発達障がい支援員につなげ、支援体制を構築していく。教職員研修を2回実施する。	関係職員への迅速な情報の共有を心掛け、スクールカウンセラーや発達障がい支援員と連携した。	
改善課題			
関係職員間のさらなる情報の共有、全体への理解を深めていくことが課題である。			

項目	取組内容・指標	結果	備考
環境教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○校内の委員会に位置づけて組織的に取り組む。 ○環境マネジメントシステムにおける本年度の実施計画を策定し、全職員で共有する。 ○「環境教育で育てたい生徒の力」を共有し、日常の教育活動の中で環境教育を実践する。 ○6月に環境週間、10～11月に環境月間を設定し、期間中に、全教職員が各々の授業の中で環境教育を実践する。 ○全職員協力のもと、ISO14001 再認証審査を受け、環境マネジメントシステムを維持する。 ○地域とのコミュニケーション活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践できた ・環境実行計画に基づき実践できた。 ・実践率 100% ・実践できた ・再認証が得られ、システム維持が承認された。 ・広く実施した。 	
改善課題			
全職員で環境教育への取組みを行うことができているが、再認証が得られ、次年度には ISO 認証取得16年を向かえる。学校教育と一体化し、環境方針、環境目標に沿った、運用及び継続的改善に努める必要がある。			

項目	取組内容・指標	結果	備考
働きやすい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○総勤務時間の縮減に向けて、年次休暇を取得しやすい環境をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の時間短縮に努力 ・定時退校日の設定 	
改善課題			
総勤務時間縮減については、会議の時間短縮に努めたほか、定時退校日を設定するなど努力したところ、一定の成果がみられたものの、根本的な解決には至っていない。引き続き、工夫していく必要がある。			

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<p>(1)学校と地域の連携は、特に高齢化している地域の活性化という視点からも歓迎する。地域住民の中には、本校との連携を知らない人も依然として多い。今後も本校の特色を活かし、地域連携を発展させていくべきである。</p> <p>(2)中学校卒業生の減少もあるが、本校への入学者選抜志願者数が減少傾向にある。本校には、北勢地域唯一の農業・家庭科専門高校として、スペシャリストの育成はもちろん、将来の地域を支える人材育成という大きな役割がある。そのためにも他校にはない強みを活かした魅力ある学校づくりを進め、志願者の増加を図るべきである。</p> <p>(3)本校の伝統である何事にも一生懸命、素直に、真面目に取り組むという学校文化を職員全員が自信を持って継承していく必要がある。あいさつやマナー指導も引き続き徹底し、さらなるイメージアップに努めるべきである。</p>
---------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<p>(1)近年の中学卒業生の減少もあるが、特に農業学科への入学志願者数が減少している。系、学科、コース体制の見直しによる魅力作りを検討する時期にある。</p> <p>(2)本校の伝統である何事にも一生懸命に、素直に、真面目に取り組むという学校文化を教職員が一丸となって指導・継承していく必要がある。その結果、生徒たちが、学びを深め、学びに自信を持ち、学び対する誇りを感じ、自己実現・進路実現せることで、より良い学校風土を築きたい。</p>
学校運営についての改善策	<p>(1)特別支援教育、人権教育、生徒指導等の職員研修や組織の目的を共有する機会を持つことができた。次年度も新たな教育課題の研修は継続していく。</p> <p>(2)教職員の多忙化の解消、仕事の平準化等を図る工夫を検討していく必要がある。</p> <p>(3)総勤務時間数縮減については、会議の時間短縮、定時退校日を設定するなど、工夫したが、抜本的な改善には至っておらず、継続して検討していく必要がある。</p>